

令和5年9月19日（火曜日）

自民党の足立敏之参院議員は8月18～22日の5日間、インドネシアを訪問し、2018年9月に大規模な地震と津波に見舞われた同国中部のスラウェシ島を視察した。写真（足立敏之事務所提供）。訪問は4年半ぶり。復旧・復興状況や同国でのインフラ整備の現状を調査した。被災地では復旧・復興が着実に進

2018インドネシア ・スラウェシ島地震

んでおり、足立氏は「インドネシアの発展のパワーを肌で感じている。この国のインフラ整備に日本の建設産業が大いに貢献している様子を拜見でき有意義な訪問となった」と語った。

18年9月28日に発生した地震の被害は同国スラウェシ島のパル市中心に津波、地盤の液状化などで死者・行方不明者数が4

足立参院議員が被災地視察 日本も協力、インフラ整備や復興現場



340人にも上った。足立氏は19日に液状化で地盤が流動化し市街地が飲み込まれる「ナロード現象」が発生したパル川を視察。土砂の流動跡や痕跡を確認した。集団移転地では

復興住宅が整備され、現在は商店街や食堂など商業施設を建設していた。地震で落橋した現場も視察。日本の無償協力事業で復旧作業が進む中、足立氏は「日本の技術力を最大限発揮していただきたい」とエールを送った。復興マスタープランに基づいて事業が進んでいることを確認した。

20日には首都ジャカルタに戻り、水力発電施設を訪問。21日は排水機場や建設中の下水処理場、漁港、都市高速鉄道（MR T）の延伸事業を視察した。下水処理場では、狭いスペースで高度処理を行う施設を建設するためニューマチックケーソンを活用。足立氏は「日本の技術を活かせる現場だと強く感じた」という。このほかジャカルタ中心部のメガクニンガン地区の大規模開発現場を視察した。